

西根

入院患者を元気づけ、早く病気を治してもらおうと西根中学校吹奏楽部(佐々木志穂部長、部員30人)は3月4日、東八幡平病院でおたのしみコンサートを開きました。コンサートでは、生徒が演歌メドレーなど9曲を披露。入院患者など70人が、迫力ある生演奏を楽しみました。

同校では今まで、西根地区内で出張コンサートを開催してきましたが、合併を機に初めて松尾地区で開催しました。



中学生の生演奏が入院患者などを楽しませました



吉田署長から感謝状を受ける津志田雅景君(写真右)

交通マナーアップモデル校の指定を受け、実践した平館高校は3月2日、岩手警察署から感謝状が贈られました。贈呈式は同校体育館で行われ、吉田修署長が、生徒代表の津志田雅景君(2年)に、交通マナーアップ実践活動への感謝状を手渡しました。

同校は、平成16年度から2年連続でモデル校に指定。生徒が反射材を積極的に着用したほか、高齢者宅へ交通安全の啓発訪問に取り組みました。

西中吹奏楽部の生演奏で自然治癒力をアップ

長年、西根地区で親しまれてきた新しいわて農協西根中央支所の農事有線放送は2月28日、48年間の歴史に幕を閉じました。

西根地区の有線放送は、昭和33年度に大更、田頭両農協でスタート。35年度には平館、寺田両農協でもサービスを開始しました。37年に4農協の有線放送を一本化し統合。49年には、自動ダイヤル化を開始しました。

放送部門では1日3回の定

時放送のほか企画番組も放送。平成10年には、全国有線放送番組コンクールで最優秀賞を受賞するなど、地域に密着した内容の濃い番組が編成されました。

有線放送は、放送と電話の両面で、地域情報化に貢献。当初の加入世帯は1785戸(大更500、田頭470、平館385、寺田430)で、ピーク時は3700戸が加入していましたが、2月末の加入世帯は1601戸でした。

地域の情報源として愛された西根有線に幕



西根有線放送が幕を閉じる2月28日、最後の原稿が録音され、加入世帯にその放送が届けられました

交通安全活動を実践した平館高に感謝状

八幡平市

八幡平市社会福祉協議会が3月1日に誕生

社会福祉の向上を目指す西根、松尾、安代の社会福祉協議会は3月1日、3団体を合併し、新生「社会福祉法人八幡平市社会福祉協議会」を発足しました。

3月7日には、第1回理事会が開かれ、同協議会の初代会長に、工藤勝治さん(大更)を互選、副会長に青木正さん(松尾寄木)、盛内源栄さん(荒屋新町)が決まりました。



3月28日には、八幡平市社会福祉協議会の設立記念式典が開かれ、玄関では名板の除幕が行われました

3月28日には、同協議会の設立記念式典が、市総合福祉センターで開かれました。玄関には名板が掲げられ、田村正彦市長や工藤会長などの手で除幕が行われました。

同協議会の事務所は松尾地区の市総合福祉センターに置き、西根、安代両地区の事務所には、それぞれ支所を置いています。

旧3町村の社会福祉協議会は、社会福祉法に1行政1社会福祉協議会の規定があることから、昨年2月から合併の協議を進め、昨年10月20日に合併協定・契約書の調印を行っています。



3月1日には職員に、辞令交付が行われました

消防防災活動に尽力した団員などを表彰

消防防災活動に尽力した人を顕彰する平成17年度岩手県消防表彰式は3月15日、県民会館で行われました。

式では、市内の3人が受章した消防庁長官表彰の披露が行われたほか、市消防団などから県知事表彰など44人、1団、2隊が受章しました。消防庁長官表彰を受章した方々は、次のとおりです。(敬称略)

■小野寺千誠副団長(荒木田)、中軽米幸雄副団長(松尾寄木)、工藤十九副団長(姥子石)



消防庁長官表彰の伝達を受ける中軽米副団長(写真右)

市の特産品八幡平ワインの全国PRを誓う



協定書に調印し、立会人とともに握手を交わす田沼征彦新岩手農協組合長(左中)と中村哲雄葛巻町長(右中)

八幡平山ぶどうワインパーティーは2月20日、テレクトラック安代で開催され、生産者やワイン製造の関係者など約210人が参加しました。

パーティーでは、新岩手農協(田沼征彦組合長)と葛巻高原食品加工(社長・中村哲雄)葛巻町長が、①市産山ぶどうの生産と買い取り②買い取り数量の協議実施③協定立会人の市によるワインの積極的なPR協力—を記した協定書に調印しました。

安代



2年間の研修を修了した(左から)田口理恵子さん、田村明恵さん、野中昭美さんと修了作品

2年間の漆工技術研修修終えそれぞれの道へ

安代漆工技術研究センターの修了証書授与式は3月28日、安代総合支所で行われました。今回、2年間の研修期間を修了したのは野中昭美さん(田山)、田村明恵さん(西和賀町)、田口理恵子さん(二戸市)の3人。式では、伊藤繁夫市産業建設部長が3人に修了証書を授与しました。

同センターは、漆器製作の後継者育成を目的に昭和58年に開設。今回の3人を加え、38人が研修を修了しています。

第16回五日市クロスカントリ大会は2月26日、旧五日市小学校周辺コースで開催されました。市内外から約200人の小・中学生が出場。父や地区住民からの声援を受け、健脚を競いました。

同大会は、平成15年3月の五日市小学校閉校後、教員やPTA主体だった大会運営を五日市振興協議会(伊藤重昭会長)が引き継ぎ、地区の住民が一体となり、大会を支えています。



声援を受けながらゴールを目指す子どもたち

地域一丸でクロスカントリ大会運営

今年で8回目を迎える「とうぎんラングライフチャレンジinAPP」は3月19日、安比高原まきば特設コースで行われました。

1歳から84歳までの約500人が県内外からエントリー。参加者は、体力などに応じて3・5・10・15歳の4コースに分かれ、安比高原の自然と景色を満喫しながら、ラングライフで心地よい汗を流しました。

また、前日の18日には、アルペールビル冬季五輪ノルディック複合団体金メダリストの三ヶ田礼一さんをインストラクターに、同会場でラングライフ教室が開かれました。「ラングライフ」とは、ドイツ語で「歩くスキー」という意味。スキー初心者から愛好者まで、自然を楽しみながら自分のペースで楽しめる冬季の生涯スポーツとして親しまれています。

県内外から500人が歩くスキーを満喫

松尾

市の特産品開発の研究成果を披露

市の農産物を活用し、特産品の開発を進めている松尾ふるさと研究会は2月23日、新いわて農協松尾中央支所で加工品発表会を開きました。

同研究会は、地域で加工品の販売を行っている7団体の女性で構成。発表会には、農業や観光の関係者など約50人が参加しました。市特産のヤマブドウやホウレンソウを活用し、健康に良いとされる雑穀



試食会には市の農産物を活用した加工品約50点がズラリ。特産品開発のため、農業・観光の関係者から、素材の生かし方や調理法などの助言を受けました

を織り交ぜた加工品約50点が並べられました。

参加者は、ヤマブドウエキス入りのドーナツや大福、ホウレンソウ入りのパンなどを試食。素材の生かし方や加工方法を助言しました。

同研究会は発表会の席上で、西根、安代両地区との連携を深めるため、八幡平市ふるさと研究会に名称を変更することを宣言しました。

美しい豊かな心、花のように咲きそろう

人権擁護委員の高橋良二さん(柏台)は3月6日、松尾地区の保育所年長組の園児50人に、コスモスの種をプレゼントしました。

高橋さんは、子どもたちの健やかな成長を願い、この活動を発案。花の種をまき、育てることで、心豊かな子どもに育ってほしいとの願いが込められています。

高橋さんの活動は、今年で9回目。延べ489人の卒所児に贈っています。



松野保育所で花の種を贈った高橋良二さん(中列中央)

安全を第一に考える優良運転者に表彰状



安全運転を心掛ける優良運転者に賞状が贈られました

交通事故の防止や啓発活動を行う松尾交通安全協会と母の会の総会は3月5日、松尾ふれあい文化伝承館で開かれました。総会では、松尾徳宣会長が、同地区の優良運転者を次のとおり表彰しました。

◆藤田範人、佐々木和美(以上、松尾)、佐々木松男、高橋幸三郎、高橋紀久男、山口正男、山口徹、佐藤出、伊藤かおる(以上、野駄)、高橋康子、高橋都子、高橋市蔵、渡部京子(以上、松尾寄木)

【敬称略】